



国有林野  
事業の取組

東北森林管理局

# 子どもたちの未来を育む 森林環境教育

▲▼ゲストティーチャーとして授業を行う局職員  
(秋田大学教育学部附属小学校で)



▼遊々の森での植林



東北森林管理局管内の国有林は、世界自然遺産の白神山や日本三大美林である「秋田スギ」「青森ヒバ」など多様な姿を見せています。同局は、こうした特色を活かし、子供から大人まで森林や林業に対する国民の理解が深まるよう、「遊々の森」をはじめとする様々な森林環境教育に積極的に取り組む、自然豊かな森林や木とのふれあいの機会を

提供しています。特に、子供たちを対象とした森林環境教育では、教育機関が、子供たちの「生きる力」を育む体験学習等の場として森林の幅広い活用を期待していることから、森林を身近に感じることで遊び、植生調査や野生動物の観察等の森林学習、植林や枝打ち等の林業体験などに取り組んでいます。

# 反響は上々



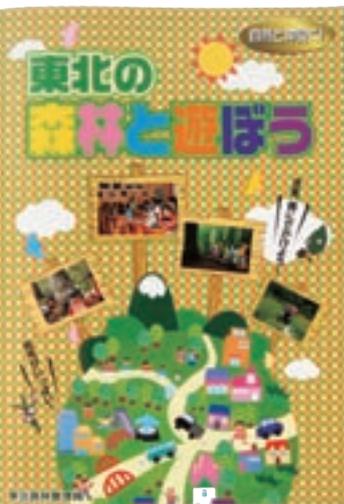
副読本の作成・配布は、市町村有志協議会等の各種会議において紹介するなど、幅広く普及に努めました。これまで31校から追加配布の依頼があるなど好評を得ています。

また、秋田市内で行われた東北社会科研究会では、この副読本を活用して秋田大学教育学部附属小学校5年生が『木の国秋田～わたしたちと森林とのかかわり～』と題した発表を行いました。この発表に先立ち、事前学習のため同小学校から依頼を受けた局職員2名が社会科ゲストティーチャーとして、秋田県における森林の状況や取組み、林業従事者の変化、今後の林業の展望や課題等について1時間の講義を行いました。

後日、担任の先生から「木の国秋田では、森林がどのように育てられ、守られているのだろう」という観点で学習しました。森林が環境保全に欠かすことのできない重要な役割を果たし、自分たちの生活と深く結びついていることを実感させて、自然とのかかわり方を考え、「木の国秋田」の創造に貢献できる子どもを育てたい」と感想が寄せられました。

このほかにも、管内では初めての「古事の森」、「社会貢献の森」づくりを行っています。東北森林管理局では、引き続き自然とふれあう機会を通じて多くの人々、特に子どもたちに森や木の素晴らしさを実感して、森林を身近に感じてもらえるよう、地域のみなさんと協働し、東北らしい「森林環境教育」に取り組んでいきます。

「遊々の森」は、学校、地方公共団体、NPOなどと森林管理署が協定を結び、子どもたちが様々な体験活動や学習活動を行うフィールドとして国有林を利用するものです。この制度は、林業体験、野生動物植物の観察、隠れ家づくりなど森林の中で遊び、学ぶ活動を通じて、子どもたちの人格形成や幅広い知識の習得に役立つものと期待されます。



東北森林管理局管内には、平成14年に三陸中部森林管

## 拡がる活動の場

理署管内の岩手県大槌町に第1号の「遊々の森」が設定されて以来、現在42箇所(約16百鈔)あります。各森林管理署では、活動に対する助言のほか、活動プログラムの提供、指導者の紹介などの情報提供を行いながら、子どもたちが

## 副読本「東北の森林と遊ぼう」

東北森林管理局独自の取り組みとして、平成21年、子どもたちに森林・林業について楽しく学んでもらい、理解を深めてもらうことを目的に、社会科の副読本「東北の森林と遊ぼう」を作成して管内(福島県を除く東北5県)の全ての

楽しく安全に活動できるようにサポートしています。

小学校に配布しました。これは、小学5年生の社会科の教科書に森林・林業についての記述があることから、高学年を対象とした内容になっています。東北地方の森林の特色を盛り込みながら、イラストや写真をふんだんに使用してわかりやすく、工夫しており、①「森林のすがた」②「森林のはたらき」③「森林は地球を守る」④「国民参加の森づくり」⑤「森林を育てよう」⑥「森林をつくらう」⑦「森林を守ろう」⑧「木材を使う」の8項目からなります。また、先生たちにも積極的に

森林環境教育を進めてもらえるよう、その狙いや、指導のポイントをわかりやすく記述した解説編も作成し配布しました。

